

SDWANのネットワーク遅延のトラブルシューティング

内容

[概要](#)

[vManageからのネットワーク遅延のトラブルシューティング](#)

[送信元と宛先のIP](#)

[フローのシミュレーション](#)

[pingおよびtraceroute](#)

[トンネルの健全性](#)

[アプリルートの可視化](#)

[パケット キャプチャ](#)

[制御接続](#)

[インターフェイスの使用率と統計情報](#)

概要

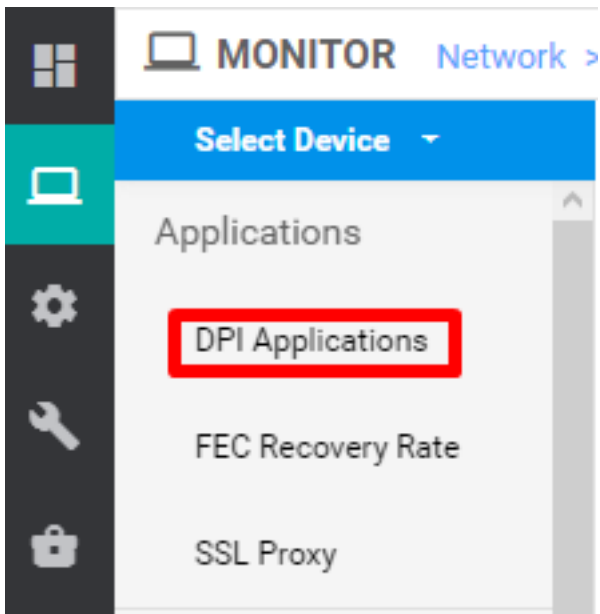
このドキュメントでは、vManageからSDWAN環境のネットワーク遅延（ネットワーク「速度低下」）をトラブルシューティングする方法について説明します。

vManageからのネットワーク遅延のトラブルシューティング

送信元と宛先のIP

送信元と宛先のIPは、収集する最初の情報の1つです。この情報を入力できます。ただし、問題がアプリケーション固有の場合は、vManageの[DPIアプリケーション]タブを常に使用できます。

[Network] > [Device] > [DPI Applications]に移動します。



ここでは、アプリケーションについて詳しく説明し、送信元と宛先のIPを取得できます（該当するアプリケーションに関する情報が必要な場合）。

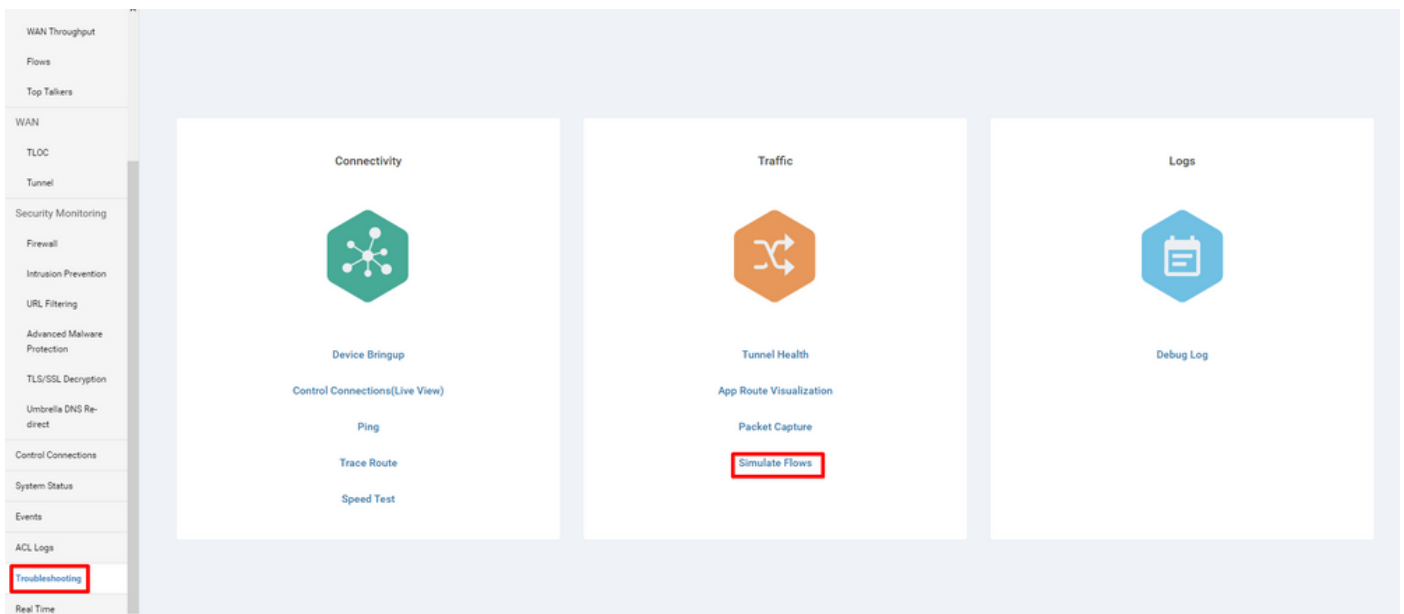
次に、HTTPトラフィックの送信元IPと宛先IPを見つけるためのブレッドクラムの例を示します。

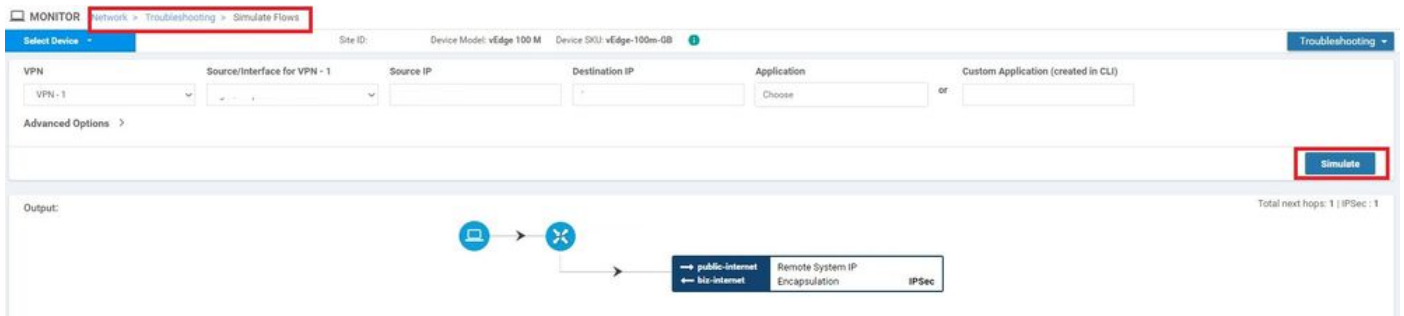
[Network > Applications - DPI > web > https](#)

フローのシミュレーション

送信元IPと宛先IPを取得したら、SDWANに組み込まれたシミュレーションフローを使用して、対象のIPのネクストホップを見つけます。

[Network] > [Device] > [Troubleshooting] > [Simulate flows]に移動します。





pingおよびtraceroute

vManageの組み込みのpingおよびtracerouteツールを使用して、到達可能性をトラブルシューティングできます。

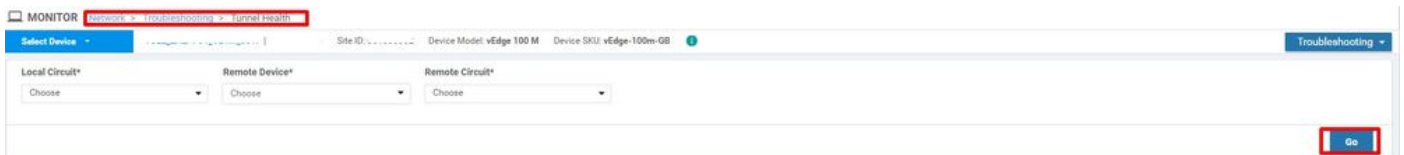
[Network] > [Device] > [Troubleshooting] > [ping/Traceroute]に移動します。

トンネルの健全性

トンネルヘルスツールは、2つのサイト間の遅延をトラブルシューティングする際に便利です。このツールを使用すると、一定期間にわたるトンネルの状態を包括的に確認できます。この状態をカスタマイズできます。

データトラフィック、トラフィックジッタ、損失、および遅延に関する統計情報や、すべての運用データプレーントンネルのその他のインターフェイス特性を表示できます。

[Network] > [Device] > [Troubleshooting] > [Tunnel Health]に移動します。

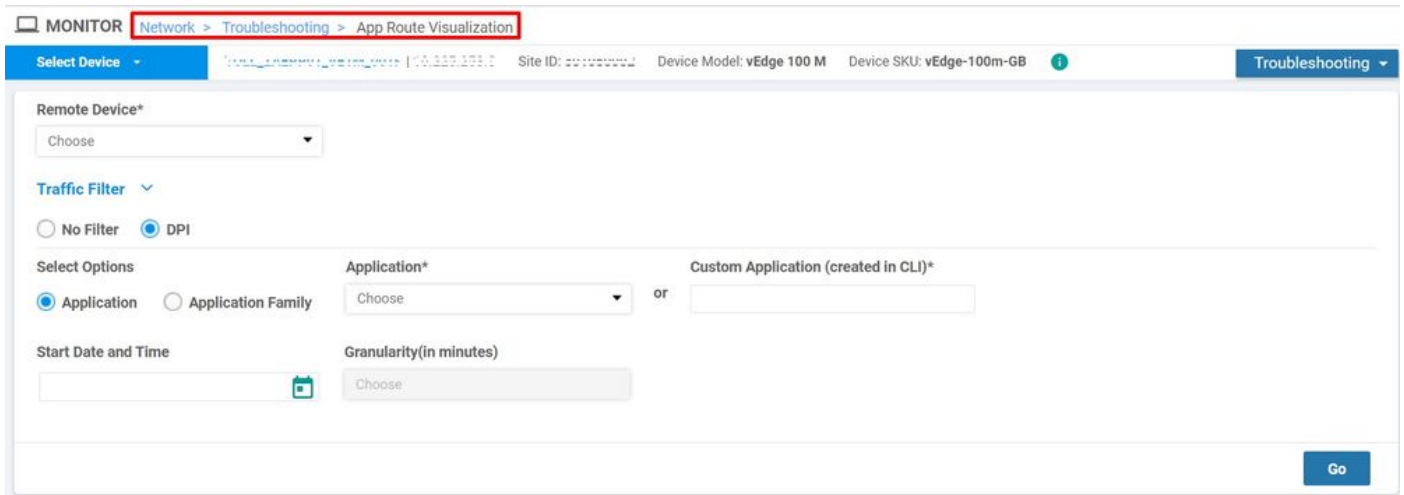


アプリルートの可視化

これにより、2台のルータ間のすべてのトンネルに関するアプリケーション対応ルーティング統計情報がグラフィカル形式で表示されます。上部のグラフには、損失の統計情報または遅延とジッタの統計情報が表示されます。

下部のグラフには、データプランネルで送受信されたパケットの数が表示されます。デフォルトでは、最初の6つのトンネルの統計情報が表示されます。

[Network] > [Device] > [Troubleshooting] > [App Route Visualization]に移動します。



パケット キャプチャ

コントロールプレーンおよびデータプレーンパケットをリアルタイムでキャプチャし、これらのパケットをファイルに保存する。

[Network] > [Device] > [Troubleshooting] > [Packet Capture]に移動します。

制御接続

制御接続をアップタイムでチェックして、基盤となる接続の問題があるかどうかを確認します。

CLIから、`show control connections`を実行します。

インターフェイスの使用率と統計情報

インターフェイスの使用率と統計情報は、左側のペインの**Interface**タブから表示できます。インターフェイス統計情報は、グラフィカルビューで表示されます。グラフオプションを使用して、特定のデータをフィルタできます。

表示するデータをカスタマイズできる期間。

[Network] > [Device] > [Interface]に移動します。

